

例会報告 Rotary



職業分類・選考委員会

- 例会日 毎週金曜日 12:30~13:30
- 例会場 高山市花里町 3-33-3 TEL 34-3988
- 会長 下屋勝比古
- 幹事 塚本 直人
- 会報委員長 大垣共立銀行高山支店 4F
- 会報委員長 挾土 貞吉

世界に希望を生み出そう

<会長の時間>

関東地方は、月曜日から大変な大雪に見舞われました。東京都内には大雪警報が出され4~5センチの雪が降りました。翌火曜日から行われたローイング合宿に参加予定でしたが始発便の飛行機が欠航したため、次の便にて何とか合流しました。日陰のところに雪がありましたが、ほとんど消えていました。テレビ報道では怪我をした人が276名、1,200件もの交通事故があったようです。

われわれからすれば、ノーマルタイヤで事故をすれば、同情どころか相手にされないことであります。電車の中でも普通の革靴の方がほとんどで、ブーツで向かった私は重装備に見えたのでしょうか。滑ると思わないのでしょうか「備えあれば患いなし」。おおげさでも万全で早めの対策は大切です。高山など雪国勤務になられた方は、初めて見る雪は冷たくて白くてきれいなのでしょう。結構危険なものです。早くペンギン歩きを身に付けていただきたいです。

今日は、24時間365日地域を見守り、困ったとき時に駆けつけてくださいる高山警察より板谷署長にお越しいただき「地域防犯と課題など」のお話をさせていただきます。私は、柔道をやっていた関係で警察学校にも機動隊にも地域の派出所にもたくさん先輩、友人や後輩が警察官として活躍していますが、警察の玄関をくぐるときは、なぜ悪いことはしていないのに学校職員室・裁判所・病院診察室ドキドキするのでしょうか。でも警察に限らず、今回の地震でも、自分や家族が被災しても現場に行かなければいけない職業の皆様方をいつも尊敬しています。今後とも岐阜県・飛騨地域そして高山市の治安と安全のためよろしくお願ひします。

最後に先週、皆さんでご意見いただきました「能登半島大地震」の2610地区への支援金の募金を今週末廻行します。2610地区では、多くの地区行事の中止が決まっています。珠洲市ではようやく仮設住宅の入居が始まりました。また輪島朝市一帯では一寸先の希望すら見えない皆さんにむけて、特に能登半島のロータリアンへの希望になるように、思いを寄せたいと思います。

<幹事報告>

◎ガバナーより

- ・奨学生の手話クラブとカウンセラーの引き受けについてのお願い
- 中部学院大学短期大学部（介護福祉専攻）在学中
- ピッツ ピョー パイ（ミャンマー出身）

◎ガバナーエレクトより

- ・2024年会長エレクト研修セミナー（PETS）のご案内
- 日時 3月24日（日） 点鐘10:30 懇親会17:30~
- 場所 名鉄グランドホテル

◎一般社団法人ロータリーの友事務所 代表理事より

- ・2024-2025年度版 ロータリー手帳お買い上げのお願い
- 1部660円 5月下旬出来上がり予定
- ※ご購入ご希望の方は2月16日例会時までに事務局へ

<例会変更>

可児 … 3月7日（木）は、可児市ジュニアゴルフスクール開催のため
9日（土）名古屋ヒルズゴルフ倶楽部 に変更
3月14日（木）は、定款により 休会

<出席報告>

出席者数	会員数	出席率
28名	36名	82.00%

<本日のプログラム> 職業分類・選考委員会

職業分類・選考委員長 古橋 直彦

本日の担当例会には、高山警察署長の板谷 和宏 様にお越し頂き卓話を頂きます。略歴をご紹介します。

板谷様は、昭和39年、高山のお生まれです。昭和58年4月に岐阜県巡査を拝命され、以降、警察署・警察本部において、主に刑事、生活安全部門で勤務。

平成25年4月に警視昇任した以降は、署副署長、中部管区警察学校教授を経て各務原警察署長、警察本部参事官を務められ、令和5年3月から高山警察署長として勤務されています。

本日は「高山市の治安課題と対策」と題しお話し頂きます。どうぞよろしくお願ひ致します。



「高山市の治安課題と対策」

高山警察署長 板谷 和宏 様

今日皆さんにお話しさせていただき課題は、訪日外国人旅行者を中心としたオーバーツーリズム（観光公害）の問題であります。

日本政府観光局のデータによると令和5年末の12月

期の訪日外国人客数が273万人を記録し、2019年の同期比で108.2%となって新型コロナウイルス感染症が拡大後、単月で最多を記録しました。

過去、日本への訪日外国人客数は2009年に約680万人でありましたが、2019年には約3,180万人に増加し、10年間でその数は4倍以上となりました。

しかし、世界的な感染症の流行を受けて国内への訪日外国人旅行者は大きく割り込んだものの、昨年2023年には感染症分類の移行を受けて再び増加しており、年間の訪日外国人客数でも昨年は2,506万人を超え、年間累計でも2019年当時の約8割までに回復しました。



例会報告

高山市はご存じのとおり、国内屈指の観光地であり、観光産業を基幹産業とする当地にとって、訪日外国人客数の増加は市経済の前途を左右する重要な要素であります。一方で、全国各地の観光地で問題化しているこれら外国人旅行者によるゴミ捨てやマナー違反等をはじめとする「オーバーツーリズム（観光公害）」問題は、当地でも深刻化しており、様々な形で地域住民の治安にも影響を与えています。

訪日外国人旅行者の問題で顕著なものにマナーに関するものがあり、「信号に従わず道路を横断する」「車道に広がっての歩行する」「商店や飲食店で列に並ばない」「ホテルや飲食店での大声を出し身勝手なふるまい」等といった日本人では常識とされる当たり前の部分が守られないという問題が地域住民や各業界から浮上しています。

また、生活感の異なりもあるかもしれませんが、病気や体調不良を発症して市販薬で対応可能であるにも関わらず、救急外来を安易に利用したり、保健診療も適用できないなど、言葉の壁、費用面などで医療現場での混乱が生じているとも聞いており、これら問題がエスカレートすれば地域の救急医療への対応にも支障を与えないかと心配をしているところです。

私たち警察が直接関わる業務として、交通事故や交通違反、自動車等の駐車に関する問題等がありますが、観光施設周辺の契約駐車場への無断駐車などの苦情が軒並み増えており、最近では外国人旅行者の迷惑駐車が多く、連絡がとれ移動するまでが非常に時間がかかってしまうというといった状態が続いています。

また、高山市へ訪れる外国人旅行者のレンタカー利用はコロナ以前まではそれほど気になることはありませんでしたが、旅行スタイルの変化が影響して近年増加が顕著であり、あわせて交通事故の方も増加しています。

手回しのデータで恐縮ですが、コロナ前の2019年に高山市内では66件の外国人・レンタカー利用の事故が発生していましたが、昨年は1.5倍の97件に増加、記憶がある方もいるかと思いますが、昨年4月には下呂市内の国道41号線では外国人旅行者運転のレンタカーが正面衝突事故を起こして2名の死者が出ています。

また、レンタカーで高山へ訪れる外国人観光客に目立つのが冬季における冬タイヤの未装着で、スリップによる事故はもちろんですがスタックして身動きがとれないといったヘルプ110番も多くなっています。

今、旅行スタイルの変化という点に触れましたが、コロナ以前までの外国人旅行者の中心を占めていたのはアジア系、特に中国の団体旅行者が多数でした。しかし、昨年は日中関係の悪化も背景にあり、一転欧米の旅行者が多くを占め、いわゆる爆買い旅行といった買い物、観光中心だった旅行から、現在は文化や体験を楽しむといったスタイルの旅行者が増加、行動しやすいレンタカーの利用が増えたのも、その辺りが影響しているのかと考えています。

文化や体験を望む外国人旅行者の変化は市街地においては、寺院や墓地、庭先等の私有地や管理地などへ無断で入り込むなどの旅行者が横行、おそらく悪気は無いのかも知れませんが、まだまだ田舎感覚のこの地では、突然に私的空間に異国人が訪れれば許容はできませんので、これまた不審者だと驚き110番となっています。

また体験という面では、勇壮な山並みが連なる北アルプスは外国人旅行者にとっても非常に魅力的であり、一気に2,200mの標高までアクセス可能な移動環境が登山の意識ハードルを下げるのか、北アルプスを含む管内山城での遭難救助者数は昨年以降、急速に増加しており、外国人登山者の遭難もコロナ禍以前を超える勢いで増加しています。

外国人登山者の遭難は、大半が訪日外国人旅行者で、不十分な登山装備や未熟な登山知識等が遭難の主原因となっています。

一方で、訪日外国人旅行者を受け入れる側の側面でも問題があります。

その一つが、ツアー旅行で、この問題は外国人旅行者に限らない問題でかねてから課題となっているものです。

ツアー旅行は主に見知らぬ者同士が集まって旅行会社の企画した行程に沿って行動をするため、たびたび集合時間に参加者が全員集まらないといった事態になります。

全てのツアー旅行がそうではないと思いますが、ツアー旅行会社の中にはこうしたツアー客が不明となった場合に、行程を優先するあまり不明者を残して次の目的地へ出発してしまうという会社があります。

そして、不明となった市内には、ツアー添乗員はもちろん、旅行会社からも誰一人来ないといったものがあり、極端な例ですと、既に次の目的地に到着してから電話で不明と置き去りを連絡して来るといった始末です。

これが日本人旅行者なら、言葉も通じる国内ですし、自力で帰宅も可能なのですが、初めて日本旅行へ訪れた訪日外国人旅行者の場合なら、“なんて無責任な国なんだ”となりますし、場合によっては国際問題に発展させるのではないかと思います。

実際、昨年5月には市内を訪れた外国人ツアーの高齢男性が集合時間に集まらず、行方不明となり、この方はドイツからやってきた単独旅行者で、日本語不能、携帯電話の所持を含めて連絡先の把握が無いなど、捜索が非常に難航してしまい、結局は報道機関への公開によって東京都内で無事発見され事なきを得たという事例がありました。

この例でも、ツアー会社は不明者の連絡先、家族等の緊急連絡先を全く把握しておらず、不明者へもツアーガイド等の連絡先や旅行の行程表も渡されていませんでした。

また、このツアー客は市内のホテルに宿泊しておりましたが、ホテル側でも法律で宿泊者名簿の作成やパスポートの写しの保管等の定めがあるにもかかわらず旅行会社が把握しているだろうとまったく不知といった具合でした。

次に、受け入れ側の問題の二つ目、実はこちらが私的には一番治安上懸念している点ですが、民泊をめぐる問題であります。

コロナ禍で高山市もここ数年は本当に旅行者も減り、飲食店や土産物店といった観光関連業が沈んでいましたが、そんな中であって異常ともいえるようにホテル等の宿泊施設が乱立しました。

このような中で、ホテル等の宿泊施設の増加と歩調を合わせたように市街地では、今、空き家活用の推進も相まって、空き家を改装した民泊施設が非常に多数設置され続けています。

この民泊ですが、その多くが一般住宅であった民家を改装して利用していることから一般住宅等が建ち並ぶ隣接した住宅街にあることから、民泊利用者による夜間の騒音問題やゴミの投棄苦情など様々なトラブルが寄せられています。

また、一般的な宿泊施設の場合は、通常、管理者が施設に在住して管理運営する訳ですが、民泊の中には全く管理者がいない利用するだけの施設が民泊「アプリなどを通じてネットだけで予約」、「ネットを通じた鍵アプリで開場して利用」、「そして帰る」といった完全に被接触で完結する施設もあり、実はこうした民泊が一番問題で、利用者が全くどこの誰であるか分からない、ネットを通じた契約なので契約者と利用者が同じかどうか分からない、ネットを通じた契約なので管理者そのものさえも実態が分からないという施設が沢山あるということです。

基本的にはホテルや旅館等の認可官庁は保健所が管轄となりますが、調べてみると高山市内で把握されている民泊実数と民泊アプリの掲載数の間には余りにも大きな乖離があります。そして、全く実態が分からない施設で、もし火の不始末があったり、何かしらの犯罪で死者が出たり、あるいは、国際テロや反社組織の犯罪拠点として利用されたとしたら、周囲の住民への影響ははかり知れないものがあります。

例会報告

以上、様々なオーバーツーリズムをめぐる問題がありますが、基本的には旅行を楽しむ外国旅行者でありますので、我々としては業務を通じて日本の生活習慣、風習風俗に応じた旅行を楽しんでいただくことが徹底されることを願っています。

高山警察署は、県下で唯一、平成29年から「訪日外国人等対応専門職」を配置して、警察署・交番等における外国語による対応の他、所属職員の外国人対応の教養、外国人に対する警察に係る制度や手続き等の分かりやすさの確保などに取り組んでおり、また、訪日外国人と直接対応する交番等に勤務する制服警察官へは、通訳アプリが導入された端末を配備するなどして現場対応時の円滑化にも努めているところであり、市内で問題化する訪日外国人の総合対策として、

- ・外国語訳を用いた交通ルールやマナーに関するポスター等の掲示
 - ・中部国際空港等を拠点とするレンタカー協会への外国人契約者への旅行マナー等の注意喚起
 - ・外国人登山者への適切な装備着装の呼びかけやレベル別コースの案内
 - ・自治体との共同による訪日外国人参加のツアー会社指導機関への注意喚起依頼、地元旅館・ホテル組合への訪日外国人観光客の把握等に関する要請
 - ・市内の民泊事業者の実態把握と管理者組合の設置に向けた働きかけ
- 等を順次取組み中であります。

県下でも、こうした取り組みは観光地高山ならではのものであり、自治体や観光関連団体等との連携を取り、手探りではありますが着実に進めていきたいと思っておりますので、本日お集りの皆さんにも是非、こうした実態を知っていただくと共にご協力を、どうか、よろしくお願い申し上げます。簡単ではありますが私からは以上となります。

<ニコニコボックス>

●下屋 勝比古さん

本日は高山警察署 板谷 和宏 署長にお越し頂きました。卓話よろしくお祈りいたします。先週協議いただきました能登半島地震の募金箱へ沢山のご支援をお願いします。

●古橋 直彦さん

本日は職業分類・選考委員会担当例会です。講師に高山警察署長の板谷 和宏 様をお迎えしました手。お忙しい所ありがとうございます。本日は宜しくお願い致します。

●米澤 久二さん、田中 晶洋さん

皆様のお手元に来年度の委員会名簿を配布させて頂きました。来年度お力添えを頂きます様よろしくお祈りいたします。

●岡田 賛三さん、田近 毅さん、阪下 六代さん、内田 幸洋さん、齋藤 章さん、田中 武さん、杉山 和宏さん、中島 一成さん

中国の春節が10日からスタートします。人気の都道府県ランキングで岐阜県が5位にランクインしました(1位東京、2位大阪、3位北海道、4位京都)!特に人気を集めているのが「白川郷」。合掌造りと雪景色がその理由のようです。日本に何度も来ている中国人たちは、主要都市以外の日本の四季に触れたいと、白川郷まで足を延ばしているようです。岐阜県が都道府県別人気ランキングで5位になるのは嬉しい限りです。しっかりとしたおもてなしを提供する事で、飛騨での旅行を満足してくれると嬉しいです。

人間力を高める

第21回

塚本 直人

年号が令和となり、気が付けばもうすぐ還暦が目の前の56歳となりました。子どもの頃の記憶の50歳代の方はもっと貴禄があったように思います。時間だけは経過し、人生後半に入りました。しっかりした人生を仕上げるためには益々「人間力を高める」必要があります。

おかげさまで、34歳で結婚し、2人の子供に恵まれました。天職を与えられ、良い経験、良い体験ができました。仕事は西ロータリークラブでの貴重な機会にも繋がりました。

子育てをすることでようやく親の有難みが身に沁みました。昨年亡くなった父の苦勞や想いも少し解りかけた気がします。但し、私はまだまだ未熟で、世の中には解っているようで、解っていないことだらけです。

現在は日々、倫理道徳を実践することが「人間力を高める」手段と考え生活しています。

私は50歳になってから、一日一日しっかりと生活するために、ルーティンワークを定め、できるだけ規則正しい生活に心がけています。いくら良い考えがあっても実践しなければ絵にかいた餅です。

毎朝、一日の初めに決まった書籍を読み、神棚、仏壇に手を合わせ一日が始まります。そして朝ドラを見ながら、スクワットをします。会社で仕事をはじめると、あつという間に一日が終わります。よほどのことがない限り、お酒をいただいて一日を結びます感謝の毎日です。良いことも、悪いこともムダはないはずです。

冬になるまでは、早朝に自転車を30キロほど漕いでから、朝食としていました。早く春が訪れないかと、再開を心待ちにしています。「体力もなければ、人間力は高まらない」との考えから、運動も意識して行うようにしています。昨年からは、20年やめていたゴルフを再開しました。ロータリークラブの方をはじめ、今までにない出会いがあり、今年はそちらも楽しみです。

心身共に鍛えて、人間力を高め、充実した人生を結びたいです。ロータリーの活動も自分を鍛える人生道場として例会には出席し勉強します。皆様よろしくお祈りいたします。

